

# 話じやれ (15)

岐久 ようこ

ニューギニアの極楽鳥

カラスより真つ黒  
グロテスクな羽ね

「いまいち地味すぎでないの？」と思いきや  
オレンジとブルーの光もの

あのCDの裏側が色々なカラーに見えるのと  
同じ仕組みの「七色かざり羽ね」を

勲章のように胸につけている  
真つ青な瞳もキレイ！

周辺で暮らすホガベ族は大切に見守る  
他を寄せ付けない環境ながら

観光客の増える気配のうらで  
族長の提案があった

一つ ダンスの良し悪し言うな  
二つ 衣装のあれこれ比べるな

そんな事はどうでもいい  
「山の木々をタキギにはいかん」



自分達も保護区だが鳥も同じ

「木を切るな！」

「メスとオスを引き会わせて  
愛情交換できてるようにして  
ヒナを生ませろ」

別なの無いのかな

派手すぎる 極楽鳥が ふつうだが  
黒い羽ね カラスも驚く クリスタル

日々持ち上げましょう

心身の苦痛とまでは言いませんが  
頬のあたりから顎へと  
筋肉が下がり気味

「ふけ顔」が気になって

そこで教えて戴いたのが

「顔の下半分を動かし筋肉を持ち上げる」

リズムに合わせてトレーニング

目尻の横を両手の人差し指で持ち上げる

唇の端、目の下の頬も

小鼻も押したり放したりして

要は人差し指で「皮膚よ下がないでネ」

山は下から登るもの

消費税十パーセントに財布の底上げをして

「私のロングスカートは？」

いつもスタイルを隠すのに好都合

「あつ 動物のシツポが！」

ときたまネコが顔をのぞかせます

ただ

スカートはめくり上げられませんか

ガードルでヒップを

持ち上げていますから

今日もまた 鏡よカガミ 頬よせて  
過去をすて 生まれたて肌 そのままで



## 好きなお飲み物

カクテルのパートナーは  
桃とマンゴーとオレンジ

講談、浪曲、落語家は

うならせるボイスがパートナー

中でも女性講談師がぞくぞくで

「耳新しいー」と人気上昇の講談界  
センスをパーンと叩いて

跳ねている

かつて浪曲の広沢虎造さんは

津々浦々までまわり

ファンを増やしていった

旅ゆけばー

駿河の国は茶の香り

浪曲「森の石松」の歌い出し

虎造さんは静岡の地元から

「ひと役かってでてよ」と頼まれ

お茶の産地をアピールし

自らが考えて歌の出だしにした

ちようどマイクが出現

「大きな声だせるように」と

練習を欠かせなかったのが止んだとか

それぞれに築いた城があり主がおり

ノドの奥から

美声を絞り出す

凡人か 才能ありか 様ざままで

特待生 一発昇格 うなり声



平成の達人だなー

野茂英雄さんは「近鉄球団」から  
年俸一億円の掲示をされても

「行かせて下さい」

大リーグ行きを諦めなかった  
めざす先のアメリカでは

「不用品買います」程度の

一千万の契約だったようです

当時の米国球界は選手の

ストライキ風がふいていた

そこへやってきて

トルネードの風を巻き起こし

「ノーヒットノーラン」やつてのけた \*1

彼はニュースでブレイク!

「野茂のおかげで助かったよ」

球団経営者からの声

そんな幸運丸にも乗ったような

ーああ 海のかなたが

ーああ ちよいと気にかかる

大リーガー志望選手が

増えていくのを彼はどう見ていたか

引越して出た物の

不用品買います

物によっては買い取りできない

こともございます

期待かけ ドラフト会議に 名を連ね

ご指名が もしも無くとも へたばるな



\*1. 1996年9月と2001年4月の2回達成